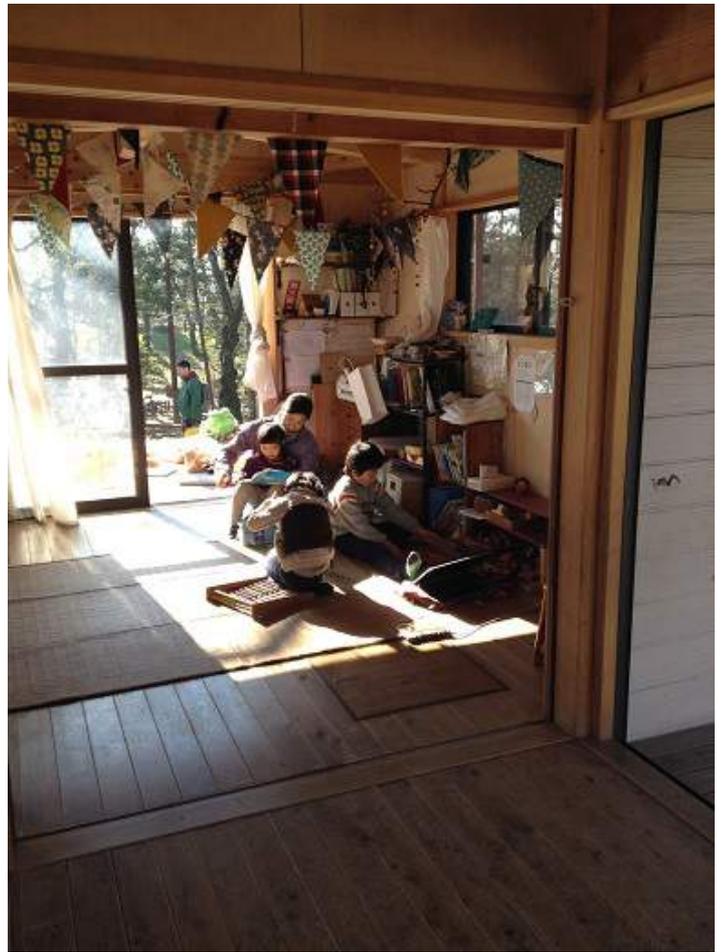


開場日には、外に旗が出る



中にはホットカーペットが敷かれ、暖かい



掲示板には子育て情報がいっぱい



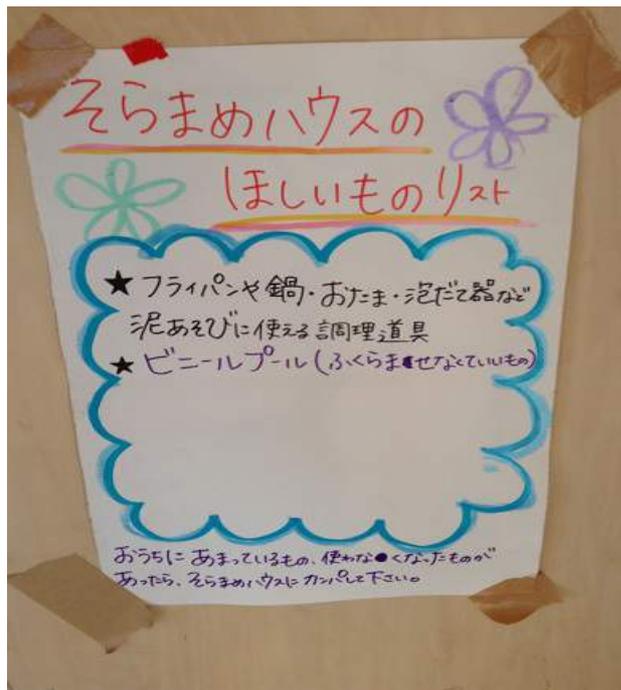
絵本や積み木などおもちゃも置かれている。



ミルク用のお湯も出る



ほしいもののリストが貼られ、
それを見て参加者が持ち寄る



小さなシーソー、かわいい。



小さなブランコ、これほしい！



◎きっかけ

小さい子どもが集まるところ、で羽根木プレーパークより紹介いただいた。

●はるプレってどんなところ？

ここはるプレは、自然の中で自由に遊べる、遊びをつくっていける冒険 遊び場&プレーパークです。

自分で決めて自分でためすことができるので、じっくり待ちの時間の必要性和、そんな時間をしっかりと持つことができる 場所でありたいと、はるプレは毎日あれこれ工夫変身し続けています。

渋谷はるのおがわプレーパークは、2004年から渋谷区の委託を受け 『渋谷の遊び場を考える会』が運営し、この夏で満11歳の誕生日を迎えました。

開園日時：午前10時から 午後5時まで 木曜日がお休みです。

雨でもやってます。タープを張ります。夏休みと冬の休みがあります。

(はるのおがわプレーパークHPより)

地域の母たちが、自分達でイベントを企画し行っている。

- ・だっこくらぶ：1～2ヶ月に1回、パパママの「やってみたい」を自分達で企画。
- ・おしゃべりc a f e：遊びに来る親たちが主体になって「やってみたい」ことを子ども達と一緒にやるイベント（毎月） イベントに使うものは各自持ち寄り。もちろん、食材も。
- ・ぼかぼかプレーパーク：年に一度のお祭り（小さい子のための）

初めての子が来やすいように、座談会、子育て情報など子育てを楽しむためのはるプレの魅力を紹介。

◎総評

来ている人たちが慣れていて、みんなで見守り、片付けもみんなで行っていた。

地域の支えがある。近所のおじさんなどのボランティアがいる。

近隣からのクレーム（うるさい、あぶない、煙やにおいがいやだ等）もあり、たき火はあまり煙のでない豆炭、さんまなどにおいの強いものはできない、登れない木があるなど制約はある。

小さい子が多く来るため、ベビーベッドやおさがり箱があったり、ベビーも行きやすいと感じた。

ベンチや低いテーブルもあり、親もゆったりと過ごせる。

外国人も多く、看板は英語表記のされていた。

プレーリーダーより長く通っている常連もいて、みんなで楽しみながら運営している感じがした。

ベビーの居場所、参考にしたい。

公園の外。釘と毛糸で作ってある



公園の外。オレンジ色なのは、工事中のネット。

リーダーハウスの外側



休みの日は、使えない。明記する。

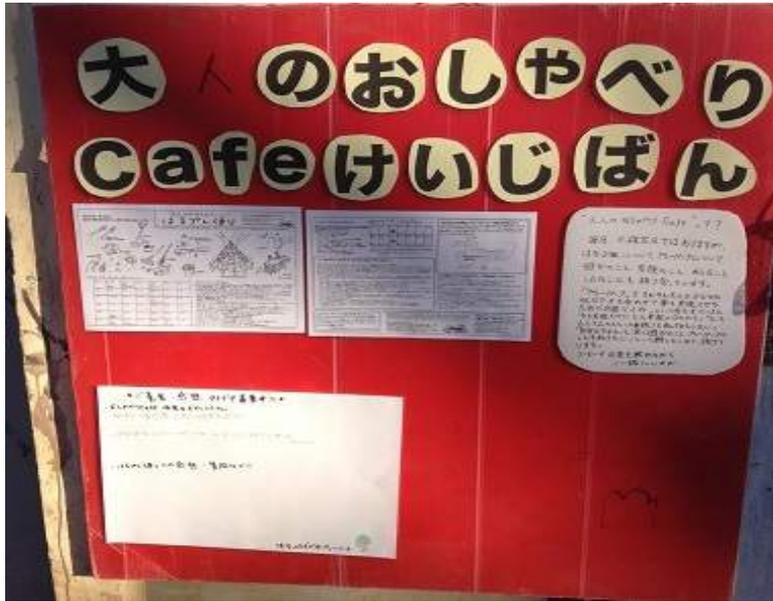


←
掲示板
絵本も
たくさんある

倉庫 →
バスケットゴール
サッカーボール
などで遊んでいる



掲示板



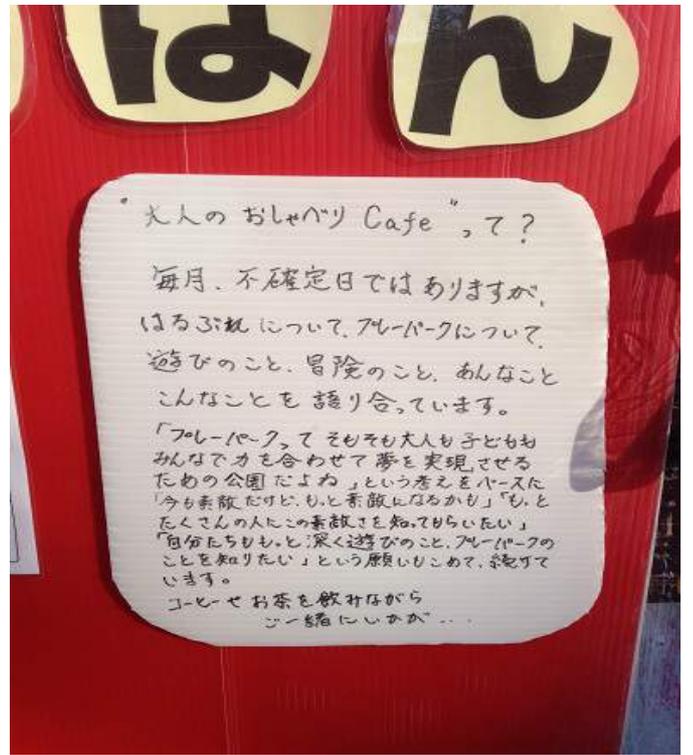
予定・呼びかけの案内

下の紙には意見を書き込めるようになっている。

たき火は、炭のみ。煙やにおいに気を遣う
持ち寄りのいもやおもちを焼いている



たらいのようなプール。かわいい。



木の周りぐるっと椅子。小さいテーブルといす。

大人がのんびり座ったり、お絵かき（スケッチブック・クレヨン）の用意もあった。



かわいいベビーベッド。おさがり箱。借りても、もらってもいい。



てづくり遊具。滑り台はなだらか。



上は薄い板で、ところどころ隙間が開いていたりでも大人が歩ける強度はあるようだ



手作りシーソー。下にタイヤ付

木陰でトントンカチカチ
道具はリーダーに言ってもらう。親が見ている



木でできた引っ張る車も人気



ロープのブランコ。終了時には外す。
座面にはリレーのバトン?のような
ものが通してあった

↓チョークでらくがき



遊育とは？

「私が私である」ということ。

遊ぶー育つ **主体が自分**にある。 本人にとって意味がある、価値のあるもの。

遊育に近いもの：学問 学ばー問う

学校は教育を行うところである。

教育=教えるー育てる

教える側が価値があると認めたものしか教えない。 価値の無いと思われることは無視する。

否定的なものは禁止してしまう。

力関係は明白なので、遊びの価値を知らないと、簡単に殺されてしまう。

「やりたい！」を否定され、「やりたくないこと」を強要される。

「やりたい！」と言わない⇒「やりたい！」と思わない⇒ 感じない心になってしまう。

感じないわけないから、感情を押し込めるようになる。

ほめられるのはうれしい。だから自分のやりたいことを殺している。

誰かの期待に応えるために。

教育の理想に応じていくうちに、自分を見失ってしまう。

遊育をあきらめた子が教育になじむ。

思春期ごろにその影響が出る。

何がどうしたらこうなるのかが、自分でわからない。

子どものコミュニケーションは肉弾戦だ。トラブルから学ぶ。

しかし、大人の働きかけで分断されてしまうため、学ぶチャンスを失っている。

遊ばないと、「自分が生きている」感覚から遠のいてしまう。生きている実感が得られない。

生きている実感が知りたいから、殺す などしてしまう。

今は昔と背景が違う。

昔は、大人の目をさけて遊んでいた。

今は、少子化 と 多大化 つまり大人が多すぎる。

子どもがエスケープできなくなってきた。

昔は子どもが夜に徘徊するのが当たり前。

今は親の問題とされれしまう。だから禁止する。

今は田舎でも都市化が進んでいる。

何でもシステム化され、コントロールされている。そこから外れることは許されない。

現代は、「遊育」を保障してあげないといけない。

遊育を徹底して保障する必要がある！！

集中力とは、他のことが見えなくなること。

それは気の構えであり、獲得させることは難しい。

「ねばならない」だと、エネルギーを消耗させる。

遊びで夢中になると、エネルギーが沸いてくる。

集中力をつけるには、夢中になった経験が生かせる。

集中力のある子は勉強もすぐできるようになる。

幼児期は、人生をつくる土台の時期。

幼児期の過ごし方が生涯を左右させるのだ。

大人は善悪で物事を判断する。

その時、価値観が働く

子どもは、快不快で判断する。

その時、情動が働く。

情動は、脳の新皮質、前頭前野にある。

人が人たるゆえんである。

他の動物も共通して持っているものだ。

脳回路のネットワークは、多様に使われれば多様に伸びていく。

使われないものはなくなっていく。再生はしない。

だから、完成される9才までが勝負！！

自律神経系・内分泌系・免疫系は、情動と同じ場所にある。

情緒が安定すれば、自分でコントロールできる。

かんたんに折れない、乗り越える力がつく。

午前中の日を当てることにより、セロトニンが増える

空調は、子どもの発達にとって邪魔をする。

家の中は快にあふれている。

外での不快を味わうことが大切。

暑い！寒い！ヌルヌル、ドロドロ、ビチャビチャが感覚を発達させる。

快不快なくして判断ができるようにはならない。

アイデンティティ=私が私であることの証。

子ども時代の記憶で自分自身がつくられていく。

なぜ覚えなくてもいいような子ども時代のエピソードを覚えてるのか？

それは情動が働くから。

情動を伴う行動は、記憶に留まりやすい。

情動の伴わない試験勉強などは、すぐに忘れてしまう。

情動を働かせ遊び込むことが、未来の自分をつくっていく。

情動を働かせ、遊び込める環境を子どもに保障する必要がある！！

◎感想

天野さんのお話は、本を読んだりインタビュー記事を読んだりしていたので、だいたいは知っている内容でしたが、ご本人から聞くと、心にすっと入り込んでくる感じがしました。情動を司る場所が、自律神経や内分泌系、免疫系とも同じ場所で、情動を動かすことによってそれらも活発に働くという脳科学的な見地からみた遊びの価値というのも、とても興味深くそして納得のいくお話だなと思いました。

このお話を、都留のみんなに聞いてほしいと思います！！

都留でも講演会をぜひ開催したいと思います。

◎きっかけ

のぞわテッターひろば 講演後に、NPO法人冒険遊び場づくり協会 より紹介。

◎レイアウト ※詳細は別紙

○プレーパークとは?大切にしていること の看板

これは、必要!!と言われた。やっぱり、見えるところに表示すべき。

○ロープでハイジブランコ

かなり高い所からロープが渡してある。着いたとき、既にしまわれていたが、機会があれば見てみたい。

○ツリーデッキ

プレーパークで作ったものだとわかるようにする。事故が起こったときに区の責任にならないようにする。

○公園で使っていた橋の端材で作った遊具

公園で使っていた橋の再利用を区から提案があったものなので、残っている。何日かかけて大人だけで作った。

○火は使っている場所が決まっている。

4年前に、倉庫で小火を起こした(火の処理が不十分だった)ため、火の管理には気を遣っている

◎始まりから現在まで

1998年、近隣に住む親子5組で毎週水曜に「子どものひろば」で遊び始める。

2006年、新宿・戸山プレーパーク となり、週5日開催

現在の代表は3人のお子さん(中3、小5、年中)を持つ主婦の方(樋口麻子さん)がボランティアで行っている。

「プレーリーダー」として仕事をする場合には有給。樋口さんは立ち上げメンバーではない。

スタッフは何人かいる。

プレーリーダーは有給で3人。サポーター募金制度や、区の助成がある。

場所：都立戸山公園のびのび広場
 日時：日、水、金、土 10時~17時 木13時半~17時
 毎週水曜12時ころ「お外でおべんと食べよう会」
 毎月第3水曜午前「よちトコ」未就園児親子対象イベントを行っている。

◎感想

- ・着いたのが、16:30頃で、もう片付け始めていた。
- ・NPO法人冒険遊び場づくり協会からの連絡で、プレーリーダーまちゃ、代表樋口さんからお話を伺うことができた。
- ・まず思ったのが、小学生が多い!! ということ。

当日は雪が残っていたため、雪合戦で遊んでいる子が多かった。

- ・すぐ近所に小中学校一貫学校があり、大学も近くにあるため、学生が多いようだ。

反面、乳幼児の利用が少ない。他の子育て支援が充実しているため、他で過ごしているのではないかな?

乳幼児がいない遊び場も雰囲気が変わってしまうので、乳幼児に来てもらえるようイベントなど企画している。

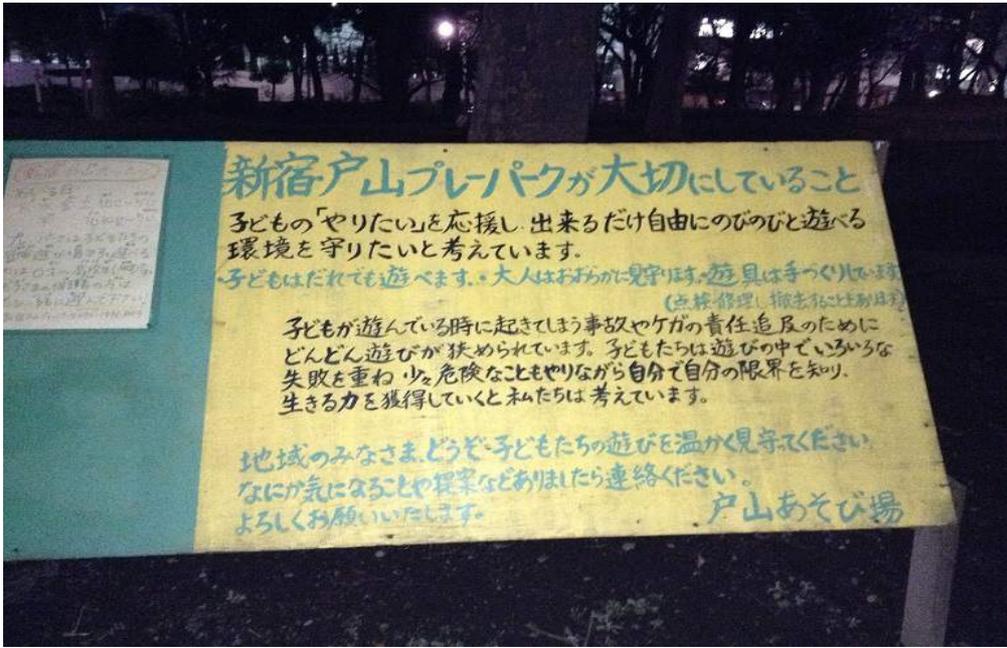
- ・小学校には学童の制度もあるが、あまり利用していなさそう。学校開放で月200円の保険代で遊べるようだが、プレーパークがあるためか、そちらも利用が少ないそう。
- ・プレーパーク終了後には現状復帰しなければならないため、あまり遊具はつくれないのだそう。
- ・ツリーデッキは遊び心をくすぐり、楽しそうだった。「じぶんのかでのぼろう!」という看板あり。
- ・自分の能力以上のことはさせない。親が乗せてしまうと降りられなくなり、危ないのだ。

◎まとめ

やはり、看板は必要だ!! ロープワークは簡単に変化できる遊びで、楽しそうだ。覚えたい。

何年続いていても、常に課題はある。近隣住民の方と仲良くやっていくための気遣いも必要。 以上。

1、プレーパークで大切にしていること 看板



イベント案内看板

イベントチラシが かわいい



ロープでハイジブランコ かなり高い



公園の橋の老朽化により取り壊した橋の再利用



ツリーデッキ

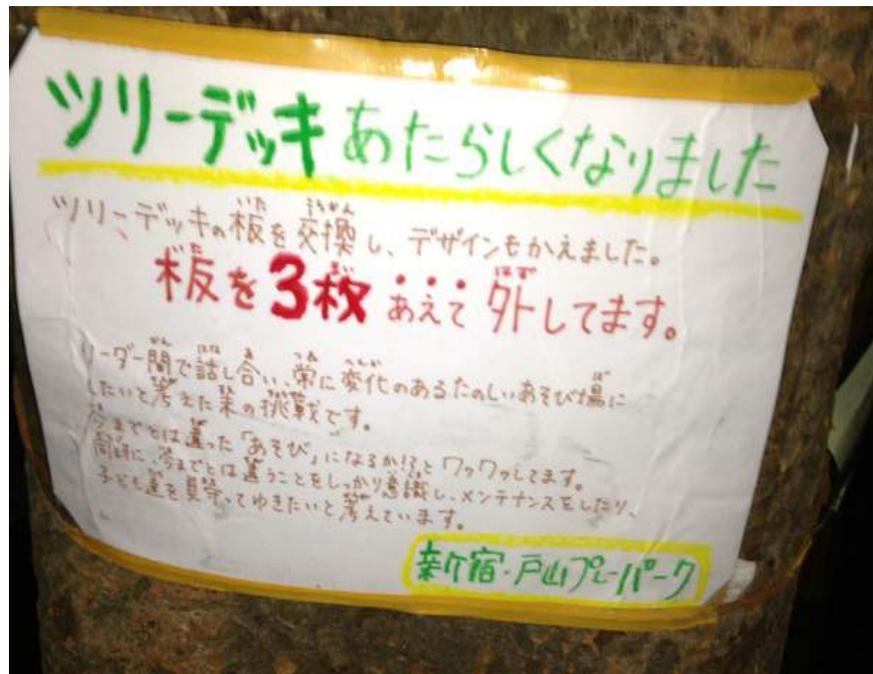


上から見た図 真ん中の板が抜けている



プレーパークで作ったというのがわかるようにしておく。

お知らせは、見えるところに！



みんなのプレーパーク、片付けもみんなで。

感謝の気持ちを忘れない

